

# I まちづくり分野

## 柱1 快適な生活環境の維持【環境保全】

自然と調和した環境負荷の少ない生活環境が保全され、快適な生活を送っている

## 柱2 限られた資源の活用【ごみ減量・処理】

ごみ減量やリサイクルを取り入れた生活環境が実現し、市民が安心して暮らしている

## 柱3 にぎわいあるまちづくりの推進【市街地整備】

秩序ある都市計画により、美しくにぎわいのあるまちで生活している

## 柱4 生活にゆとりとuringおいを生む公園緑地推進【公園緑地】

公園等が整備され、ゆとりとuringおいのある生活を送っている

## 柱5 生活を支える道路の整備と維持管理【道路】

道路が整備され、人や車が安全・快適に通行している

## 柱6 安心して住み続けられる住環境の確保【住環境】

住環境が整備され、安心・安全な生活環境が確保されている

## 柱7 浸水被害のないまちづくりの推進【治水】

河川等が整備され浸水被害に遭うことなく、安心して暮らしている

## 柱8 公共下水道の普及促進【下水道】

下水道が整備され、衛生的で快適な生活を送っている

## 柱9 安全な水の安定供給【上水道】

健全な経営と水道施設の整備により、安全な水道水が安定的に供給され、市民は安心して利用している

### ～ 10年後の江南市を担う若い世代の声～

#### 江南市の魅力

- 身近なところに公園があり自然豊か
- 堤防が整っていて見晴らしが良い
- 田舎ほど不便でなく、名古屋に近いが都会ほど空気が汚れていたり騒がしくない
- 豊かで安心して暮らせるまち並みを残したい

中学生

#### 市長だったら やってみたいこと

- 商店街のまち並みを活性化させたい
- 主要な道路を増やして、企業を呼び込みたい
- お年寄りが買い物をしやすくしたい
- 木を植えたりして緑を多くし、空気のきれいなまちにしたい

中学生

出典：第6次江南市総合計画の策定に向けた中学生アンケート調査

I まち  
柱 1

快適な生活環境の維持  
— 環境保全 —

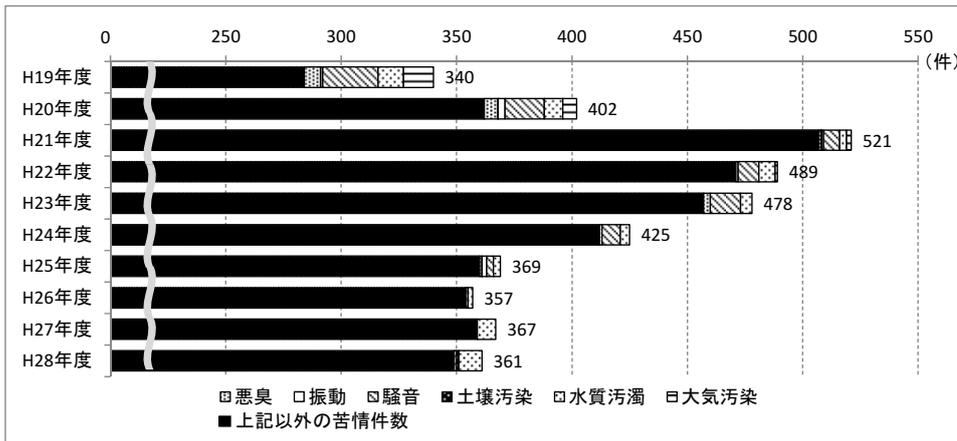
現状と課題

パリ協定<sup>注1</sup>の発効により、温室効果ガス<sup>注2</sup>の削減は先進国から途上国まですべての国が取り組むべき重要課題となっており、持続可能な社会の形成が必要とされています。また、高齢化の進展に伴う空家・空地の増加により、管理されていない土地の周辺環境に及ぼす悪影響が問題になっています。

江南市においては、地球温暖化防止のため、行政で温暖化対策実行計画に基づいた取り組みを行っているほか、一部市民の間でクリーンエネルギー<sup>注3</sup>の導入が図られていますが、十分ではありません。また、生活環境の苦情は多種多様化しており、雑草や屋外燃焼行為などへの苦情は年間300件を超えていることから、生活環境を損なわないための意識の向上と迅速な対応が課題となっています。

地球温暖化防止については、地球規模の問題であり、市が独自にできることは限られています。市民一人ひとりが環境への加害者・被害者であることを自覚する必要があります。省エネルギー、省資源、自然環境保全、環境監視などの取り組みにおいて、市民・事業者・行政の協働による幅広い対応が求められています。

■公害苦情件数の推移



■公害苦情件数の内訳

区分	年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
		公害の苦情件数									
法律で定められた	大気汚染	13	6	2	1	0	0	0	0	0	0
	水質汚濁	11	8	3	7	5	4	3	2	8	10
	土壌汚染	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	騒音	24	17	7	9	13	8	3	1	0	1
	振動	1	3	1	0	0	0	2	0	0	0
	地盤沈下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	悪臭	7	6	1	1	3	1	1	0	0	0
	小計	56	40	14	18	21	13	9	3	8	12
上記以外の苦情件数	屋外燃焼行為	146	157	230	212	184	152	107	95	88	67
	雑草除去	89	100	143	132	124	120	136	143	174	158
	その他	49	105	134	127	149	140	117	116	97	124
	小計	284	362	507	471	457	412	360	354	359	349
合計		340	402	521	489	478	425	369	357	367	361

資料：環境課

注1 パリ協定：平成 27 年 12 月に国連気候変動枠組条約第 21 回締約国会議（COP21）において採択された、気候変動に関する 2020 年以降の新たな国際枠組みを取り決めた協定。平成 28 年 11 月に発効。  
 注2 温室効果ガス：太陽から受ける日射エネルギーは、地表面に吸収されて地表を暖め、暖められた地表からは大気中に熱エネルギー（赤外線）が放出される。その熱エネルギーが大気中に存在する特定の微量気体によって吸収されることにより、大気の温度が上昇する。このような作用をする大気中の微量気体を総称して温室効果ガスと呼ぶもので、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素などがある。  
 注3 クリーンエネルギー：環境への影響がより少ないエネルギーのこと。太陽エネルギーや風力エネルギーなどの自然エネルギーや、電力、LNG（液化天然ガス）などの二次エネルギーがあげられる。

## 10年後のすがた

自然と調和した快適な生活環境をめざし、公害苦情の少ないまちづくりが積極的に推進されている。また、地球温暖化防止のため、クリーンエネルギーの導入が進み、市民・事業者の省エネルギー、省資源への意識が向上し、日常生活や事業活動において環境に配慮した行動が根づいている。その結果、環境負荷の少ない生活環境が確保され、市民が安心して快適に暮らしている。

## 行政の使命

環境負荷の少ない生活環境を確保するため、積極的な啓発、パトロールを実施し、迅速かつ適切な対応により問題解決に当たる。また、市民・NPO<sup>注4</sup>・事業者などと協働で、省エネルギー、省資源、自然環境保全、環境監視などの幅広い取り組みをよりいっそう進め、市民の意識の高揚を図る啓発、活動支援を積極的に行い、持続可能な社会の形成を推進する。

## 成果目標

**全体目標：自然と調和した環境負荷の少ない生活環境が保全され、快適な生活を送っている**

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
日ごろから、省エネルギーや再生可能エネルギーの導入などにより、環境に配慮して生活している市民の割合	%	37.8 (H28)	57.0	72.0	市民満足度調査により測定。
水質汚濁・騒音・悪臭など公害のない快適な環境で生活していると感じる市民の割合	%	57.6 (H28)	60.0	61.0	市民満足度調査により測定。

**個別目標①：環境保全の意識が高まり、環境負荷の少ない生活・活動を営んでいる**

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
環境保全活動を行っている市民の割合	%	47.2 (H29)	52.0	55.0	市民満足度調査により測定。
市民1人当たりの二酸化炭素排出量	t-co2/ 人・年	5.70 (H27)	4.89	4.58	温暖化の原因となる二酸化炭素排出量を測定するもの。

### ●行政の取り組み

基本施策	施策内容	主な事務事業
環境保全への意識の高揚	地球温暖化対策として住宅用太陽光発電システムなどの設置費補助金を継続するとともに、LEDなどの省エネルギー製品の導入及び普及促進を図る。また、家庭や事業所で手軽に取り組むことができる「緑のカーテン」の実施を促進する。エコドライブなどの二酸化炭素の排出を抑制する取り組みを促進する。	・温暖化防止事業

注4 NPO：「Non-Profit Organization」または「Not-for-Profit Organization」の略称で、様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない団体の総称。

**個別目標②：良好な生活環境が創出され、公害・苦情の少ない快適な生活を送っている**

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
公害苦情件数	件	361 (H28)	182	146	良好な生活環境の程度を測定するもの。
河川水質に係るBOD <sup>注1</sup> (生物化学的酸素要求量)の環境基準の達成割合	%	50.0 (H28)	64.3	78.6	環境基準達成箇所数/環境基準測定箇所数
大気中の窒素酸化物の量	ppm	0.021 (H27)	→	→	大気の汚染状況を測定するもの。

**●行政の取り組み**

基本施策	施策内容	主な事務事業
良好な生活環境の創出	良好な生活環境を創出するため、意識啓発や自然環境の調査・監視を実施するとともに、公害苦情などの相談及び対策をする。	・環境公害対策事業

**市民協働のモデル**

**市民協働事業**

- 環境基本計画推進事業**
  - ・市民の代表者や学識経験者によって構成する環境審議会において環境基本計画の進捗管理などを行っています。
- 環境教育事業**
  - ・環境学習アドバイザーを委嘱されたNPO<sup>注2</sup>・ボランティア<sup>注3</sup>団体などの会員が、市に環境学習プログラムを登録し、そのプログラムを小中学校、保育園、その他各種団体などからの申込みを受けて、講座を実施しています。

**市民協働の推進に向けて**

- 低炭素社会に向けた活動の実践**
  - ・市民、事業者に対し、省エネルギー行動の普及促進、環境への配慮の啓発などを行います。
- 生活排水対策の推進**
  - ・各家庭で排水対策に取り組んでいただくよう、環境フェスタ江南<sup>注4</sup>などで排水の処理方法の啓発を行います。

**関連する個別計画**

- 改訂版第二次江南市環境基本計画 (H29~H33)
- 第三次江南市地球温暖化対策実行計画 (H30~H34)

注1 BOD：Biochemical Oxygen Demand の略で、BOD値とは生物化学的酸素要求量。河川などの水の汚れ度合いを表す数値で、水中の有機物などの汚染源となる物質を微生物によって無機化あるいはガス化するとき消費される酸素量を mg/L で表したものの。数値が高いほど、水中の有機汚染物質の量が多い。

注2 NPO：「Non-Profit Organization」または「Not-for-Profit Organization」の略称で、様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的としない団体の総称。

注3 ボランティア：自主的に社会活動などに参加し、奉仕活動をする人。

注4 環境フェスタ江南：環境問題に対する全市民的な取り組みを推進し、市民一人ひとりに環境問題についての理解を深めてもらうことを目的に毎年開催されるもの。

I まち  
柱 2

限られた資源の活用  
— ごみ減量・処理 —

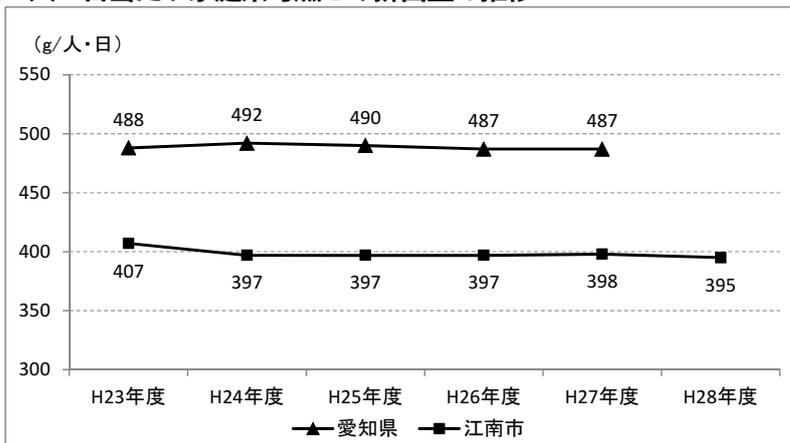
現状と課題

循環型社会<sup>注5</sup>形成の実現のため、廃棄物の発生抑制（リフューズ）、排出抑制（リデュース）、再利用（リユース）、再生利用（リサイクル）の4Rが推進され、廃棄物などを貴重な資源としてよりいっそう有効活用するなど、循環を量の面から捉えるだけでなく質の面からも捉えて、地域全体によるごみ減量やリサイクルの取り組みが推進されています。

江南市においては、平成28年度の1人1日当たりの家庭系可燃ごみの排出量は395gで、ここ数年は減少傾向にあります。また、県内でいち早くごみ減量対策に取り組んできたため、リサイクル率は全国的にみても高い水準を維持していますが、リサイクル事業を推進するに当たっては、市民参加が不可欠なことから、ボランティア分別指導員<sup>注6</sup>などの育成を積極的に進めています。また、ごみの排出が困難な高齢世帯などの増加や大規模災害の発生予測に伴い、安心・安全なごみの収集・適正処理体制の確保が課題となっています。一方、ごみ処理施設については、江南丹羽環境管理組合<sup>注7</sup>の焼却施設が老朽化しているため、広域化による新ごみ処理施設建設に向けて取り組みを進めています。

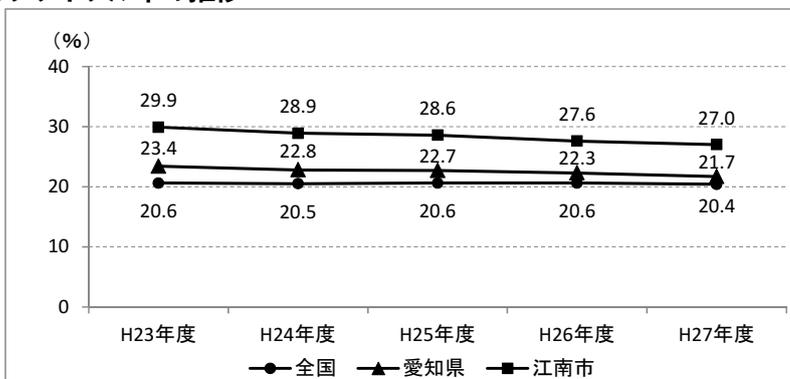
このようなことから、ごみに対する意識改革を提起することにより、市民・事業者・行政が協働してごみ減量に取り組んでいくことが求められています。

■ 1人1日当たり家庭系可燃ごみ排出量の推移



資料：環境課

■ リサイクル率の推移



資料：環境課

注5 循環型社会：環境への負荷の低減を図るために、資源やエネルギーのリサイクル、リユースに配慮したシステムを有する社会のこと。わが国では、循環型社会の形成を推進する基本的な枠組みとなる循環型社会形成推進基本法が平成12年6月に制定された。

注6 ボランティア分別指導員：市の「ボランティア分別指導員養成講座」を受講し、資源ごみ回収日に集積場に立ち、ごみ分別を指導するボランティアのこと。

注7 江南丹羽環境管理組合：昭和42年2月に江南市・丹羽郡大口町・丹羽郡伏桑町により、ごみ処理施設の設置及び維持管理に関する事務を共同処理する目的として設立された一部事務組合（地方自治体などが、団体の事務の一部を共同で処理するために設ける地方公共団体の組合）のこと。

## 10年後のすがた

循環型社会<sup>注1</sup>形成の意識が定着し、ごみ減量運動が市民・事業者・行政の協働により、地域全体で取り組まれている。

その結果、市民1人当たりのごみ排出量が減少し、快適で衛生的な生活環境の下で、市民が安心して暮らしている。

## 行政の使命

地域のごみ減量に関する意識の高揚と行動の促進を図るための啓発、組織や人の育成、活動支援を行い、適正な分別リサイクルを行う。また、ごみ処理施設、し尿処理施設及び火葬施設については、適正で効率的な運営を図り、新ごみ処理施設建設事業については、事業主体である尾張北部環境組合と連携し、安心・安全なごみ処理施設の実現に取り組む。

## 成果目標

**全体目標：ごみ減量やリサイクルを取り入れた生活環境が実現し、市民が安心して暮らしている**

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
ごみの減量やリサイクルに取り組んでいる市民の割合	%	60.7 (H28)	65.0	70.0	市民満足度調査により測定。

**個別目標①：リサイクルが進み、市民が出す可燃ごみ量が減っている**

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
市民1人1日当たりの家庭系可燃ごみ排出量	g	395 (H28)	392	392	家庭系可燃ごみ排出量が減っているかを測定するもの。
1事業所1年当たりの事業系可燃ごみ排出量	t	7.6 (H27)	7.4	7.4	事業系可燃ごみ排出量が減っているかを測定するもの。
リサイクル率	%	27.0 (H27)	28.0	28.0	分別リサイクルに対して市民意識が向上しているかを測定するもの。

### ●行政の取り組み

基本施策	施策内容	主な事務事業
ごみ減量と再利用の促進	ごみ減量の啓発を引き続き行い、環境フェスタ江南 <sup>注2</sup> 、説明会、ボランティア分別指導員 <sup>注3</sup> 養成講座、事業所訪問などで啓発活動を実施する。	・ごみ減量対策・ごみ減量作戦「57（コウナン）運動」 <sup>注4</sup> 事業

注1 循環型社会：環境への負荷の低減を図るために、資源やエネルギーのリサイクル、リユースに配慮したシステムを有する社会のこと。わが国では、循環型社会の形成を推進する基本的な枠組みとなる循環型社会形成推進基本法が平成12年6月に制定された。

注2 環境フェスタ江南：環境問題に対する全市民的な取り組みを推進し、市民一人ひとりに環境問題についての理解を深めてもらうことを目的に毎年開催されるもの。

注3 ボランティア分別指導員：市の「ボランティア分別指導員養成講座」を受講し、資源ごみ回収日に集積場に立ち、ごみ分別を指導するボランティアのこと。

注4 ごみ減量作戦「57（コウナン）運動」：江南丹羽環境管理組合（環境美化センター）の焼却場を延命使用していくため、平成10年2月より、ごみ減量、分別リサイクルの推進を展開している運動のこと。

**個別目標②：ごみ、し尿、火葬が適正に処理され、市民の生活環境が保全されている**

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
特定家庭用機器などの不法投棄台数	台	10 (H28)	10	10	家電・パソコンの不法投棄が減っているかを測定するもの。
ごみ・し尿を速やかに収集、処理することで、衛生的に暮らしていると感じる市民の割合	%	84.8 (H29)	88.0	90.0	市民満足度調査により測定。

**●行政の取り組み**

基本施策	施策内容	主な事務事業
ごみの適正な収集、運搬、処分	市民の生活環境を保全するため、ごみなどの収集及び処理を行い、ごみ処理に関して、一部事務組合や関係団体などと連絡・調整を図るとともに、清掃業者などに対して業の許可や指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可燃ごみ収集運搬事業</li> <li>・分別ごみ収集運搬事業</li> <li>・尾張北部環境組合関係事業</li> </ul>

**市民協働のモデル**

**市民協働事業**

**●ごみ減量対策・ごみ減量作戦「57（コウナン）運動」事業**

- ・市内各区が主体性をもって、ごみ集積場所を管理運営することにより、ごみの減量や分別に関する取り組みを行っています。
- ・市民、事業者の協力の下、環境フェスタ江南や分別指導員の養成・活動推進の取り組みを行っています。

**市民協働の推進に向けて**

**●ごみの発生（排出）抑制と再使用の取り組みの促進**

- ・食品ロス<sup>注5</sup>の削減に取り組むため、フードバンク活動<sup>注6</sup>の啓発などを行います。

**関連する個別計画**

- 江南市ごみ処理基本計画（H27～H36）
- 江南市生活排水処理基本計画（H28～H37）
- 江南市分別収集計画（H29～H33）

注5 食品ロス：まだ食べられるのに廃棄される食品のことをいう。大切な資源の有効活用や環境負荷への配慮から、食品ロスを減らす必要がある。

【参考】消費者庁 食べ物のムダをなくそうプロジェクト

注6 フードバンク活動：まだ食べられるのにもかかわらず廃棄されてしまう食品を引き取り、福祉施設などへ無料で提供する活動。【参考】農林水産省 フードバンク「1.フードバンク活動とは？」

I まち  
柱 3

にぎわいあるまちづくりの推進  
— 市街地整備 —

現状と課題

人口減少・超高齢社会<sup>注1</sup>の進展に対し、今後も持続可能なまちづくりを行うための議論が盛んに行われています。こうした社会情勢の変化に対応するために、国は都市再生特別措置法を改正し、医療・福祉・商業等の生活利便施設の集約や公共交通による地域拠点のネットワーク化により、都市形成を図る「コンパクト・プラス・ネットワーク」<sup>注2</sup>の実現に向けて具体的な取り組みを強化することを提言しています。

江南市においては、以前より駅前・市街地の活性化が重要であるとする市民が多い中で、あわせて秩序あるまちなみの形成も重要であるという認識が高まってきており、現在の都市構造の再構築を重要課題としたまちづくりへのニーズがさらに増大することが予想されます。

持続可能な都市構造への転換を図るためには、都市基盤整備とともに、民間による多種多様な活動と提案が必要不可欠であり、市民、事業者と行政が連携・協働することが重要です。都市計画マスタープラン<sup>注3</sup>や新たに作成する立地適正化計画<sup>注4</sup>などに、コンパクトシティをより具体的に推進するための方策や、地域のニーズに合った交通ネットワークのあり方を示し、秩序ある都市計画の推進を図ることが求められています。

10年後のすがた

適切な市街地整備を進めることにより、地域の都市生活、経済活動が活性化し、まちづくり活動を積極的に推進する団体が組織され、行政との協働による自立した多様なまちづくり活動が盛んに行われている。

その結果、秩序ある都市計画の推進がなされ、中心拠点や地域拠点に生活利便施設の集約化が進み、拠点間の交通ネットワークが確保されていることで、市民がにぎわいと安らぎのある生活を送っている。

行政の使命

人口減少・超高齢社会を見据えたコンパクトシティの実現に向けて、市民と共有できるビジョンや方策を都市計画マスタープランや立地適正化計画などに定め、秩序ある都市空間を創出するため、実現性の高い都市計画を推進する。

成果目標

全体目標：秩序ある都市計画により、美しくにぎわいのあるまちで生活している

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
秩序ある、美しいまちなみが形成されていると感じる市民の割合	%	22.0 (H28)	33.0	40.0	市民満足度調査により測定。

注1 超高齢社会：高齢化率（65歳以上人口が総人口に占める割合）が21%を超えた社会。高齢化率が7%を超え14%までを“高齢化社会”、14%を超え21%までを“高齢社会”という。

注2 コンパクト・プラス・ネットワーク：国土交通省が提唱している政策であり、人口減少や高齢化が進む中であっても、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活サービス機能確保し、住民が安心して暮らせる、持続可能な都市経営を実現できるよう、関係施策間で連携しながら、都市のコンパクト化と拠点間の交通ネットワーク形成をすること。「国土のグランドデザイン2050」では、基本戦略の一つとして「コンパクト+ネットワーク」と示されている。

注3 都市計画マスタープラン：将来の都市づくりのビジョンと、これを実現化するための市町村の都市計画に関する基本的な方針を定めた計画。

注4 立地適正化計画：人口減少や超高齢社会を見据え、将来にわたり市民の都市生活を持続させていくため、コンパクトシティの形成を推進するための計画。

**個別目標①：魅力的で快適な市街地が整備され、多くの市民でにぎわっている**

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
駅前や市街地が整備され、人々が集いにぎわっていると感じる市民の割合	%	11.3 (H28)	20.0	25.0	市民満足度調査により測定。
江南駅・布袋駅の1日当たりの乗降客数	人	35,700 (江南駅) 27,000 (布袋駅) 8,700 (H28)	36,400	36,800	市街地のにぎわいを、駅の乗降客数で測定するもの。
布袋南部土地区画整理事業注5の進捗率	%	96.5 (H28)	100.0	-	快適な住環境の整備が行われているかを、布袋南部土地区画整理事業の進捗率で測定するもの。 執行済額/総事業費

**●行政の取り組み**

基本施策	施策内容	主な事務事業
中心拠点の基盤整備	布袋駅付近において、土地区画整理や鉄道の高架化とあわせて道路及び駅前広場等の都市基盤整備を行うことにより、交通環境を改善し、良好な市街地を形成する。 江南駅付近においては、布袋駅付近での事業効果を検証し、地域の声を参考にして、都市基盤整備の検討を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>布袋駅東複合公共施設整備（用地取得）事業★</li> <li>交通結節点整備事業（布袋駅東地区）★</li> <li>布袋地区まちづくり支援事業</li> <li>布袋駅付近鉄道高架化整備事業★</li> <li>布袋南部土地区画整理事業</li> </ul>

**個別目標②：市民の足が確保できている**

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
誰もが公共交通により市内の必要な場所に行くことができ、便利に暮らしていると感じる市民の割合	%	16.9 (H28)	22.0	27.0	市民満足度調査により測定。

**●行政の取り組み**

基本施策	施策内容	主な事務事業
市民の足の確保	市民の移動手段の確保のため、市のまちづくりの方向性に沿った公共交通を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>いこまいCAR<sup>注6</sup>運行事業</li> <li>バス関連事業</li> </ul>

注5 土地区画整理事業：土地区画整理法に基づき、都市計画区域内の土地について、公共施設の整備改善及び宅地利用の増進を図るために行われる土地の区画形質の変更や公共施設の新設または変更に関する事業をいう。

注6 いこまいCAR：市民が地域社会に積極的に参加しやすくなるために、市内移動の交通手段として、市が平成14年1月から運行しているコミュニティ・タクシー。

**個別目標③：適正な都市計画により、秩序があり美しく、快適なまちづくりが行われている**

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
都市計画道路 <sup>注1</sup> の整備率	%	67.5 (H28)	69.1	70.9	快適で便利な市街地整備が行われているかを、都市計画道路の整備率で測定するもの。 都市計画道路整備済延長/都市計画道路計画延長

**●行政の取り組み**

基本施策	施策内容	主な事務事業
秩序ある都市計画の推進	快適で持続可能な生活環境づくりをめざし、土地利用のあり方や実現性の高い都市施設整備の方針を都市計画マスタープラン <sup>注2</sup> 及び立地適正化計画 <sup>注3</sup> で示し、それらに関連する都市計画道路等の整備を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市計画基本図整備事業</li> <li>都市計画マスタープラン及び立地適正化計画策定事業★</li> <li>街路整備促進事業</li> <li>都市計画道路整備事業（江南通線）★</li> </ul>

**市民協働のモデル**

**市民協働事業**

**●布袋地区まちづくり支援事業**  
・まちづくり団体への事業補助及び活動支援を行っています。

**市民協働の推進に向けて**

**●地域による公共交通の検討支援**  
・新たな公共交通に対する地域のニーズなどについて、地域が主体となって検討することに対して支援します。

**関連する個別計画**

- 江南市都市計画マスタープラン（H30～H39）（予定）
- 江南市緑の基本計画（H30～H39）（予定）
- 江南市立地適正化計画（H31～H50）（予定）
- 都市再生整備計画 布袋地区（H16～H35）
- 江南布袋南部土地区画整理事業<sup>注4</sup>事業計画（H7～H34）

注1 都市計画道路：健全な市街地の形成と活力ある都市形成に寄与するため、都市の基盤的施設として都市計画法に基づいて都市計画決定した道路をいい、その機能に応じて、自動車専用道路、幹線街路、区画街路、特殊街路の4種類に分けられる。  
 注2 都市計画マスタープラン：将来の都市づくりのビジョンと、これを実現化するための市町村の都市計画に関する基本的な方針を定めた計画。  
 注3 立地適正化計画：人口減少や超高齢社会を見据え、将来にわたり市民の都市生活を持続させていくため、コンパクトシティの形成を推進するための計画。  
 注4 土地区画整理事業：土地区画整理法に基づき、都市計画区域内の土地について、公共施設の整備改善及び宅地利用の増進を図るために行われる土地の区画形質の変更や公共施設の新設または変更に関する事業をいう。

I まち  
柱 4

生活にゆとりとuringおいを生む公園緑地推進  
— 公園緑地 —

現状と課題

都市における緑とオープンスペース<sup>注5</sup>は、少子化・超高齢社会<sup>注6</sup>の進展や子育て支援の重要性の高まりを受けて、ゆとりとuringおいのある生活を実現するために、また、近年発生が危惧されている各種災害時にも、その災害の拡大防止、緊急時の避難場所、復旧復興活動の拠点などとして極めて重要な役割を担っています。

江南市においては、平成27年度末の市民1人当たりの都市公園面積は3.8㎡で、特に市街地で低く、愛知県平均8.0㎡、全国平均10.3㎡を大幅に下回っており、今後も用地確保などの困難な問題もあり、公園整備については厳しい状況です。

一方で、公園緑地に対する市民ニーズは多様化し、よりきめ細やかな対応が求められ、また、多種多様な公園施設は、設置から年数が経過したものが多く老朽化が進んでおり、修繕などの負担も増大しています。

このようなことから、特に市街地における計画的な公園緑地の整備を進めるとともに、地域と行政の協働による維持管理の実施、安心・安全な公園施設を維持するための計画的な改修・更新を推進していくことが求められています。

■江南市内の公園など（平成27年度末現在）

種別	箇所数	面積
都市公園	16箇所	387,874㎡
その他公園	12箇所	23,377㎡
児童遊園	9箇所	16,584㎡
遊園地	16箇所	8,875㎡
緑地	19箇所	2,890㎡
広場等	10箇所	16,929㎡
合計	82箇所	456,529㎡

資料：まちづくり課

■緊急避難場所に指定された公園など

対象災害	公園などの名称
地震	地藏山児童遊園、草井児童遊園、布袋児童遊園、二子山児童遊園、交通児童遊園、古知野中児童遊園、北山児童遊園、小鹿児童遊園、白山児童遊園、(仮称)大間児童公園、曼陀羅寺公園、中央公園、蘇南公園、江南緑地公園(中般若・草井)、江南花卉園芸公園(フラワーパーク江南)
大規模な火事	交通児童遊園、(仮称)大間児童公園、中央公園、蘇南公園、江南緑地公園(中般若・草井)、江南花卉園芸公園(フラワーパーク江南)

資料：防災安全課

注5 オープンスペース：公園・広場など、建物によって覆われていない場所の総称。市街地では休息の場所や防災上の避難場所として確保されることがある。

注6 超高齢社会：高齢化率（65歳以上人口が総人口に占める割合）が21%を超えた社会。高齢化率が7%を超え14%までを“高齢化社会”、14%を超え21%までを“高齢社会”という。

## 10年後のすがた

公園緑地の整備が進み、それらが地域によって大切に管理され、また、地域を挙げて緑化に取り組んでいる。

その結果、緑豊かな環境でゆとりとうるおいのある生活を送っている。

## 行政の使命

緑の基本計画などに基づき、計画的な公園整備を行うとともに、地域との協働による緑化の推進及び公園緑地の維持管理を行う。また、公園施設長寿命化計画に基づいた計画的な公園施設の改修・更新を行い、ライフサイクルコスト<sup>注1</sup>の縮減を図る。

## 成果目標

### 全体目標：公園等が整備され、ゆとりとうるおいのある生活を送っている

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
公園等が整備され、ゆとりとうるおいのある生活を送っていると感じる市民の割合	%	33.4 (H28)	37.0	40.0	市民満足度調査により測定。

### 個別目標①：都市公園等が整備され、気軽に利用できる公園が身近にあると感じている

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
市民1人当たりの都市公園面積	m <sup>2</sup>	3.9 (H28)	5.0	7.0	都市公園供用面積/人口

#### ●行政の取り組み

基本施策	施策内容	主な事務事業
都市公園等の整備推進	市民に憩いの場や遊びの場を提供するため、公園緑地等を整備する。	・公園等整備事業 ・木曾川上流域整備促進事業

### 個別目標②：都市緑化が推進され、ゆとりとうるおいのある生活を送っている

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
花いっぱい運動 <sup>注2</sup> 実施箇所数	箇所	33 (H28)	35	37	市民による緑化活動の状況を測定するもの。

#### ●行政の取り組み

基本施策	施策内容	主な事務事業
計画的な緑化の推進	ゆとりとうるおいのある生活環境を形成するため、緑化を推進する。	・緑化推進事業

注1 ライフサイクルコスト：計画・設計・施工から、その建築物の維持管理、最終的な解体・廃棄までに要する費用の総額のこと。イニシャルコスト（初期費用）とランニングコスト（維持・運営コスト）に分けられる。【参考】江南市公共施設等総合管理計画 用語集

注2 花いっぱい運動：市民との協働により公園などの花壇に花を植栽することで、緑化意識の高揚を図るとともに、花と緑につつまれたゆとりとうるおいのある生活環境を形成する事業。

**個別目標③：地域で維持管理される公園緑地等が増え、適正に利用されている**

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
地域で管理されている公園緑地等の数	箇所	43 (H28)	45	46	公園緑地等が地域で愛着をもって適正に管理されているかを測定するもの。

**●行政の取り組み**

基本施策	施策内容	主な事務事業
適正な公園緑地等の維持管理	公園緑地等を安心して安全に利用することができるよう、公園緑地等の維持管理をする。	・公園等維持管理事業

**市民協働のモデル**

**市民協働事業**

**●緑化推進事業**

・花いっぱい運動事業やシンボルツリー配付事業<sup>注3</sup>などの推進により、地域による緑化を進めています。

**●公園等維持管理事業**

・地域が公園に愛着をもち、より適正な管理が行われるように、地域による維持管理を推進しています。

**市民協働の推進に向けて**

**●愛着の湧く公園づくりと地域による維持管理の推進**

・愛着の湧く公園緑地の整備・利用促進を図り、地域による維持管理につながる取り組みを進めます。

**関連する個別計画**

- 江南市都市計画マスタープラン<sup>注4</sup> (H30～H39) (予定)
- 江南市緑の基本計画 (H30～H39) (予定)
- 江南市立地適正化計画<sup>注5</sup> (H31～H50) (予定)
- 木曽川左岸公園計画
- 江南市公共施設等総合管理計画 (H28～H67)
- 江南市公園施設長寿命化計画 (H25～H34)

注3 シンボルツリー配付事業：子どもの健やかな成長や人生の節目を記念して、各家庭で植樹していただく記念樹『家族のシンボルツリー』を配付する事業。

注4 都市計画マスタープラン：将来の都市づくりのビジョンと、これを実現化するための市町村の都市計画に関する基本的な方針を定めた計画。

注5 立地適正化計画：人口減少や超高齢社会を見据え、将来にわたり市民の都市生活を持続させていくため、コンパクトシティの形成を推進するための計画。

まち  
柱5

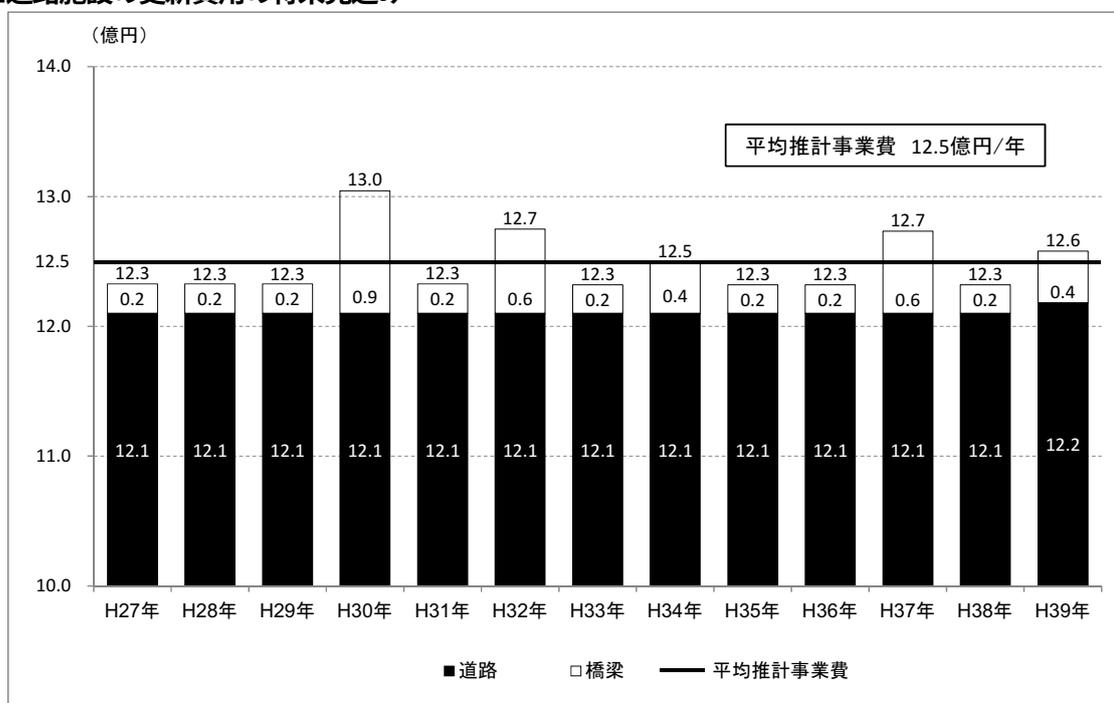
生活を支える道路の整備と維持管理  
— 道路 —

現状と課題

近年、厳しい財政状況が続く中で、公共施設等の老朽化対策が大きな課題となっています。  
江南市においても、道路や橋梁等の道路施設は、高度成長期以降に集中的に整備されたものが多く、今後急速に老朽化が進展し、一斉に改修・更新が必要となる見込みで、維持管理費用が増大することが課題となっています。

道路施設は市民生活に直結した都市基盤であるため、劣化や異常を早期に発見し、軽微なうちに対策を行う予防保全の考えを取り入れ、中長期を見通した計画的な維持管理の実施により、コスト縮減・平準化を図りつつ、地域の道路網の安全性・信頼性を確保することが求められています。

■道路施設の更新費用の将来見込み



資料：土木課

10年後のすがた

交通量の多い生活道路を中心に、道路が整備され、適切に維持管理されている。  
その結果、道路を安全に通行することができ、市内で安心して活動し、生活できている。

行政の使命

安全で安心できる道路づくりの推進と計画的・効率的な道路整備を実施する。また、道路の良好な環境を保つため、適切な維持管理を実施する。

## 成果目標

### 全体目標：道路が整備され、人や車が安全・快適に通行している

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
道路が整備され、人や車が安全に通行していると感じる市民の割合	%	27.7 (H28)	42.0	50.0	市民満足度調査により測定。

### 個別目標①：道路等の財産が適切に管理され、快適に利用している

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
道路占用料等の収納率	%	99.9 (H28)	100.0	100.0	道路占用料等収納額/道路占用料等調定額

#### ●行政の取り組み

基本施策	施策内容	主な事務事業
適正な道路等の財産管理	道路等に関する台帳整備、使用許可などの財産管理や不法投棄物の撤去、環境美化活動などの保安全管理を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路台帳整備事業</li> <li>道路・河川占用・公共用物使用許可事業</li> </ul>

### 個別目標②：道路が整備され、円滑な通行が確保されている

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
側溝整備率	%	67.1 (H28)	68.6	69.4	側溝延長/道路実延長×2
舗装整備率	%	92.7 (H28)	93.1	93.3	舗装済延長/道路実延長

#### ●行政の取り組み

基本施策	施策内容	主な事務事業
道路の整備及び維持管理	道路施設の長寿命化を推進するため、計画的に点検や修繕等を実施する。また、地元からの要望をもとに、整備の必要性や事業効果を勘案し、道路側溝・舗装等工事を施工する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路施設長寿命化事業</li> <li>道路側溝・舗装等整備事業</li> </ul>

## 市民協働のモデル

### 市民協働事業

#### ●道路維持管理事業

- 市民などが道路の清掃に参加することで愛着をもち、道路が良好な環境に保たれています。

## 関連する個別計画

- 江南市公共施設等総合管理計画 (H28～H67)
- 江南市道路施設長寿命化計画
- 江南市橋梁長寿命化修繕計画 (H24～H33)
- 江南市都市計画マスタープラン<sup>注1</sup> (H30～H39) (予定)
- 江南市緑の基本計画 (H30～H39) (予定)
- 改訂版第二次江南市環境基本計画 (H29～H33)

注1 都市計画マスタープラン：将来の都市づくりのビジョンと、これを実現化するための市町村の都市計画に関する基本的な方針を定めた計画。

I まち  
柱6

安心して住み続けられる住環境の確保  
— 住環境 —

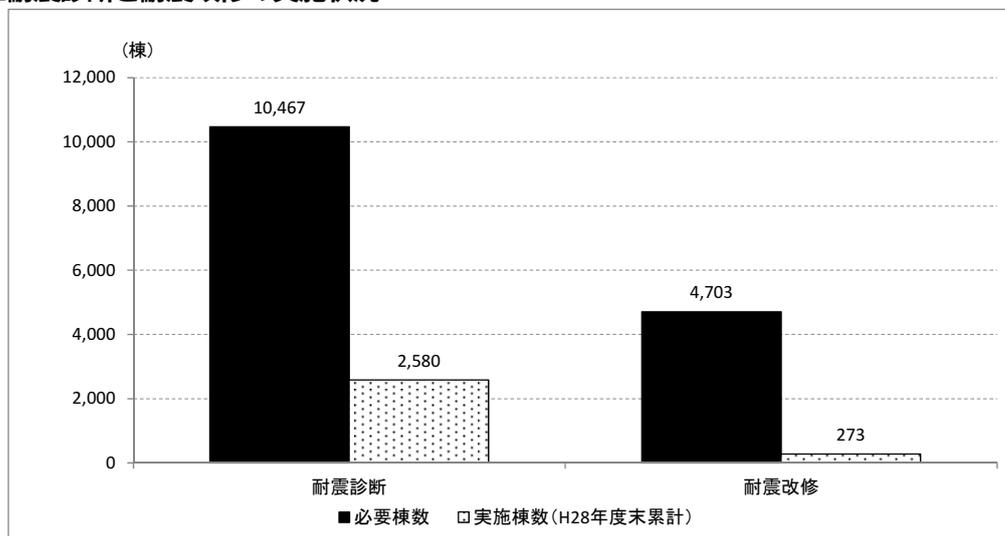
現状と課題

建築物に対する地震など災害からの安全の確保、適切な管理が行われていない空家等に関する問題、高齢化社会の進展に伴う市街地への居住空間の確保など、人々の住環境へのニーズは多様化し、関心が高まりつつあります。

特定行政庁（限定特定行政庁）<sup>注1</sup>である江南市においても、民間指定確認検査機関<sup>注2</sup>や市民からの建築相談、関係法令などについての相談が増加しています。また、地震対策や空家等に関する住環境に不安を感じている市民も多く、木造住宅の耐震改修の早期実施、減災化の対応、空家等対策の推進など、安心・安全な住環境の確保が課題となっています。

このようなことから、耐震・減災事業に対する補助制度の継続や、専門的技術をもつ職員や豊富な知識・経験をもつ民間組織と行政の連携が求められています。また、住宅に困窮する方が安心して暮らせる住環境の提供や、公共施設の安全性・快適性の確保なども求められています。

■耐震診断と耐震改修の実施状況



資料：建築課

10年後のすがた

民間組織と行政が連携を図り、効果的な開発・建築指導がなされ、耐震及び空家等への取り組みが進められている。また、公共施設は、バリアフリー化・ユニバーサルデザイン<sup>注3</sup>化され、有効に利用されている。

その結果、住環境が整備され、市民は安心・安全な生活環境の下で暮らしている。

行政の使命

安心・安全な住環境を構築するため、専門的技術・知識や経験をもつ市民や民間組織と連携し、耐震改修、空家等対策、街なか居住、既存公共施設の有効利用とバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化を推進する。

注1 特定行政庁（限定特定行政庁）：建築基準法関係の事務を行う役所を「特定行政庁」といい、小規模な建築物（4号建築物）に限り事務を行う役所を「限定特定行政庁」という。江南市は限定特定行政庁に当たる。

注2 民間指定確認検査機関：国土交通大臣または都道府県知事の指定を受けて、建築確認申請・検査業務を行う民間機関をいう。

注3 ユニバーサルデザイン：障害の有無、年齢、性別、人種などにかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。バリアフリーとは、障害者や高齢者が、生活する上で支障となる物理的な障壁や意識上の障壁を取り除くこと、また障壁が取り除かれた状態。障壁を取り除くことをバリアフリーというのに対し、はじめから障壁をつくらないという考え方がユニバーサルデザイン。

**成果目標**

**全体目標：住環境が整備され、安心・安全な生活環境が確保されている**

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
住環境が整備され、安心・安全な生活環境が確保されていると感じる市民の割合	%	54.0 (H28)	57.0	60.0	市民満足度調査により測定。

**個別目標①：住環境に関する民間組織と行政との協働による取り組みは、安心・安全への住民意識を高揚させている**

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
民間での建築確認割合	%	99.0 (H28)	99.0	99.0	安心・安全な住環境づくりに寄与する、民間組織での建築確認の割合を測定するもの。
耐震診断の診断実施済棟数	棟	2,580 (H28)	3,500	4,000	住宅に対する防災意識を測定するもの。

**●行政の取り組み**

基本施策	施策内容	主な事務事業
適切な開発許可と建築指導、木造住宅耐震化の促進及び空家等対策の推進	良好な生活環境を確保するため、建築に関する審査、指導や建築物の耐震化を促進、空家等に関する施策を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築確認審査等事業</li> <li>・民間木造住宅耐震診断事業</li> <li>・民間木造住宅耐震補強事業</li> <li>・耐震改修促進計画事業</li> <li>・空家等対策推進事業★</li> <li>・開発行為指導事業</li> </ul>

**個別目標②：住民による施設運営への参加により適切に整備・維持管理された市営住宅が供給され、安心・安全な生活環境が確保されている**

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
市営住宅の入居割合	%	100.0 (H28)	100.0	100.0	市営住宅に対する需要を測定するもの。 入居戸数/市営住宅戸数

**●行政の取り組み**

基本施策	施策内容	主な事務事業
市営住宅の整備・維持管理及び市有建築物の整備	住宅に困窮する低額所得者が、健康で文化的な生活を営むことができるようにするため、市営住宅を供給する。また、公共施設の安全性及び快適性を確保するため、市有建築物の新築、改修、修繕等の設計及び工事の監督をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市営住宅維持運営事業</li> <li>・市営住宅長寿命化事業</li> <li>・市有建築物建設・改修・修繕等の設計及び工事の監督業務</li> </ul>

## 市民協働のモデル

### 市民協働事業

●**耐震改修促進計画事業**

・自主防災訓練の際に、無料耐震診断及び耐震改修工事等補助金の広報活動を防災リーダー会<sup>注1</sup>が行っています。

●**空家等対策推進事業**

・空家等対策の協議会の委員として市民が参加しています。

●**市営住宅維持運営事業**

・共用部分の清掃などの市営住宅の維持管理について、入居者が積極的に行っています。

### 関連する個別計画

- 江南市公共施設等総合管理計画（H28～H67）
- 江南市公営住宅等長寿命化計画（H22～H30）
- 江南市耐震改修促進計画（H20～H32）
- 江南市都市計画マスタープラン<sup>注2</sup>（H30～H39）（予定）
- 江南市空家等対策計画（H30～H39）



市営力長住宅

注1 防災リーダー会：「あいち防災リーダー会こうなん」のことで、愛知防災カレッジを修了し、防災リーダーの称号を得た者の会である。地域防災リーダーとして、防災知識の普及や災害情報の収集発信などの活動をし、地域防災意識の高揚に努めている。【参考】江南市 協働ステーション Web

注2 都市計画マスタープラン：将来の都市づくりのビジョンと、これを実現化するための市町村の都市計画に関する基本的な方針を定めた計画。

I まち  
柱 7

浸水被害のないまちづくりの推進  
— 治水 —

現状と課題

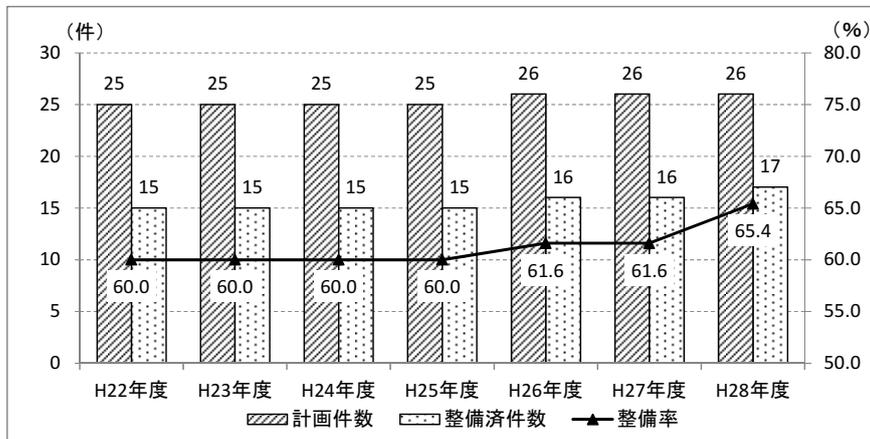
近年、地球温暖化やヒートアイランド現象<sup>注3</sup>などによる集中豪雨や毎年発生する台風の影響により、全国で多くの浸水被害が発生しています。

江南市においても、都市化が進むとともに、保水機能をもつ田畑が減少しており、浸水被害が多く発生するようになりました。

このような中、河川が整備されて、安心して暮らしていると感じる市民の割合は半数程度にとどまっており、河川・排水路の改修や雨水貯留浸透施設<sup>注4</sup>の設置は依然、課題になっています。

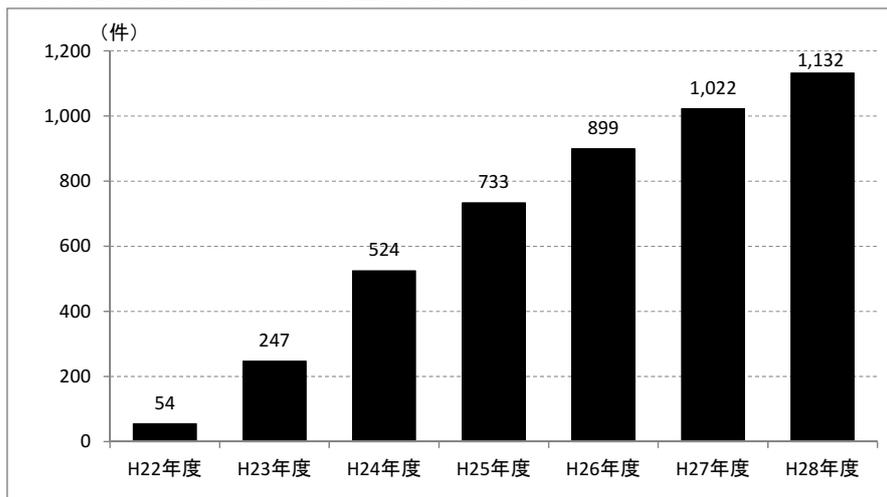
今後は、公共施設への雨水流出抑制施設の整備や河川・排水路の改修などの治水対策を推進することで、市民が安心して暮らすことができる、浸水被害のないまちづくりが求められています。

■雨水流出抑制施設整備率



資料：土木課

■雨水貯留浸透施設設置費補助金申請累計件数



資料：土木課

注3 ヒートアイランド現象：都市部において、高密度にエネルギーが消費され、また地面の大部分がコンクリートやアスファルトで覆われることにより水分の蒸発を通じた気温の低下が妨げられて、郊外部よりも気温が高くなっている現象をいう。

注4 雨水貯留浸透施設：敷地内からの雨水の流出を抑制するために設置する雨水貯留槽などの雨水貯留施設や、雨水浸透槽などの雨水浸透施設の総称をいう。

## 10年後のすがた

青木川放水路事業、市内の河川の調節池整備や河川改修事業、公共施設への雨水流出抑制施設整備、市民が担う雨水貯留浸透施設<sup>注1</sup>の設置など、流域の総合治水対策が進み、浸水被害が軽減されている。その結果、浸水被害に対する不安が解消され、市民が安心・安全に暮らしている。

## 行政の使命

国・県・近隣自治体などとの関係機関と一体となって、河川の調節池整備や河川・排水路の改修を進める。  
 降雨時の河川や排水路への負担を軽減するため、公共施設への雨水流出抑制施設設置を進める。  
 また、市民に対し雨水貯留槽、浸透トレンチ<sup>注2</sup>、雨水浸透枿、透水性舗装などの浸透施設と浸水防止施設の普及を図る。

## 成果目標

**全体目標：河川等が整備され浸水被害に遭うことがなく、安心して暮らしている**

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
河川等が整備され、安心して暮らしていると感じる市民の割合	%	48.7 (H28)	60.0	67.0	市民満足度調査により測定。

**個別目標①：雨水流出抑制機能の強化と河川等の改修整備がされ、浸水被害が軽減している**

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
雨水流出抑制施設整備率	%	65.4 (H28)	69.3	77.0	雨水流出抑制施設整備済件数/計画件数
雨水貯留浸透施設設置費補助金申請累計件数	件	1,132 (H28)	2,190	2,980	市民が担う治水対策の取り組み状況を測定するもの。

### ●行政の取り組み

基本施策	施策内容	主な事務事業
雨水流出抑制機能の強化と河川・排水路の改修整備	浸水被害を軽減するため、学校などの公共施設への雨水流出抑制施設を順次整備する。また、総合治水対策を推進するため、市民が担う雨水貯留浸透施設の設置に対し、補助金を交付する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>雨水貯留施設整備事業</li> <li>雨水流出抑制事業</li> </ul>

注1 雨水貯留浸透施設：敷地内からの雨水の流出を抑制するために設置する雨水貯留槽などの雨水貯留施設や、雨水浸透枿などの雨水浸透施設の総称をいう。  
 注2 浸透トレンチ：雨水浸透施設。有孔もしくは空隙により透水性を有する雨水管（トレンチ管）の周囲を砂利や碎石などで充填し、雨水を地中に濾過浸透させ、雨水の急激な流出を抑制するとともに地下水の涵養にも役立つ施設。

## 市民協働のモデル

### 市民協働事業

#### ●雨水流出抑制事業

- ・ 降雨時の河川や排水路への負担を減らすため、宅地開発などの場合、事業者が特定都市河川浸水被害対策法や江南市雨水流出抑制基準に基づき対策することで、敷地からの雨水の流出を抑制しています。
- ・ 降雨時の河川や排水路への負担を減らすため、市民が雨水タンクなどの雨水貯留浸透施設を設置することで、敷地からの雨水の流出を抑制しています。

#### ●総合治水対策事業

- ・ 河川や排水路の美化意識を高めるため、市民と行政が一体となり、川と海のクリーン大作戦<sup>注3</sup>を実施しています。

## 関連する個別計画

- 第3次江南市総合治水計画（H22～H52）
- 公共下水道事業基本計画（H21～H37）



雨水貯留浸透施設の見学（北部中学校）

注3 川と海のクリーン大作戦：国土交通省が毎年、全国の市町村に呼びかけて、地域と行政が一体となって行う、河川及び海岸の清掃活動。清掃活動への参加を通じて、“ごみを捨てない・捨てさせない”という意識の啓発をすることなどを目的とする。

I まち  
柱 8

公共下水道の普及促進  
— 下水道 —

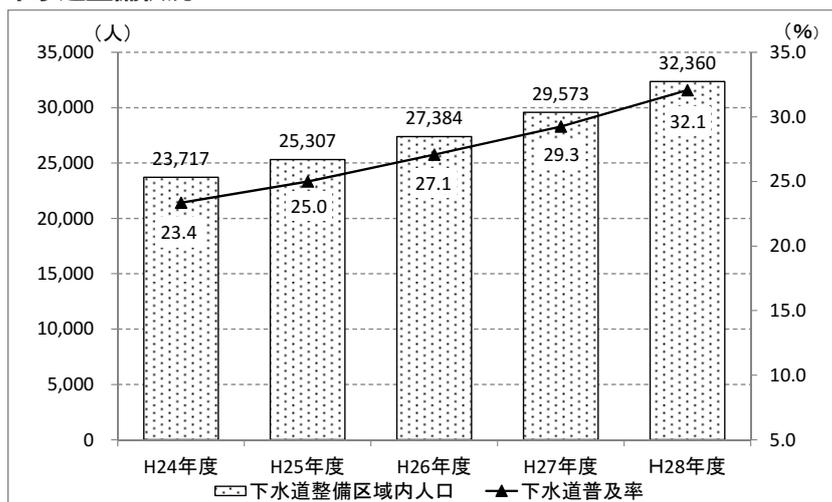
現状と課題

20世紀の下水道事業は水害防止、公衆衛生の改善、水質汚濁の防止の観点から推進されてきましたが、21世紀には地球環境問題への関心が高まっており、国も「都道府県構想」策定の要件に汚水処理の今後10年程度での概成を掲げるなど、公共下水道の整備促進が求められています。

江南市では、下水道整備の事業着手が平成5年度と遅かったため、平成28年度末の下水道普及率は32.1%（愛知県平均77.2%）と近隣市町<sup>注1</sup>と比べても低い水準であり、市街化区域の整備が終わるまでには、まだ数年かかることが見込まれます。また、郊外を流れる五条川のBOD<sup>注2</sup>値は平均2.3mg/Lですが、市街地を流れる般若川のBOD値は平均10.4mg/Lと高く、汚れが目立つなど、河川の水質改善が急務となっています。こうしたことから、できるだけ早急に下水道整備を進めるとともに、整備された区域においては早期に接続することが望まれます。

昔のように魚の棲める水のきれいな河川環境を再生するため、最大限にコスト縮減を図りつつ費用対効果の高い手法により、下水道の整備を進めていくことに加えて、長期的な視点に立った下水道経営の健全化を図ることが求められています。

■下水道整備状況



資料：下水道課

10年後のすがた

供用開始されている区域の大部分が下水道に接続されている。  
その結果、下水道整備区域内の側溝には、雨水のみが流れ、市民は衛生的で快適な暮らしをしている。

行政の使命

下水道使用料、受益者負担金<sup>注3</sup>等の賦課徴収事務を適正に行い、健全で持続可能な下水道経営及び計画的な下水道整備の推進を図る。下水道接続に対する市民の理解を深めてもらうため、啓発活動を行う。

注1 近隣市町：ここでは、名古屋鉄道や高速道路などの交通アクセスの観点から、一宮市、犬山市、小牧市、岩倉市、大口町、扶桑町の6市町としている。  
注2 BOD: Biochemical Oxygen Demand の略で、BOD値とは生物化学的酸素要求量。河川などの水の汚れ度合いを表す数値で、水中の有機物などの汚染源となる物質を微生物によって無機化あるいはガス化するとき消費される酸素量を mg/L で表したものの。数値が高いほど、水中の有機汚染物質の量が多い。  
注3 受益者負担金：下水道が整備されることにより利益を受ける人（整備区域の土地、建物所有者など）が、建設費用の一部を負担するもの。

**成果目標**

**全体目標：下水道が整備され、衛生的で快適な生活を送っている**

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
下水道や浄化槽が整備され、衛生的で快適な生活を送っていると感じる市民の割合	%	46.7 (H28)	49.0	50.0	市民満足度調査により測定。

**個別目標①：下水道使用料、受益者負担金の収納率及び接続人口の向上により、健全で安定した下水道事業が経営されている**

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
下水道使用料の収納率(現年度)	%	99.7 (H28)	↗	↗	下水道使用料収納額/下水道使用料調定額
受益者負担金の収納率(現年度)	%	99.2 (H28)	↗	↗	受益者負担金収納額/受益者負担金調定額
下水道整備区域内の水洗化率	%	69.6 (H28)	80.5	87.9	H28 末時点下水道整備区域内の接続人口/H28 末時点下水道整備区域内人口

**●行政の取り組み**

基本施策	施策内容	主な事務事業
下水道事業の健全な経営	下水道事業の健全経営のため、下水道使用料、受益者負担金及び分担金の賦課、徴収などの事務を行い、財源を確保する。また、下水道に対する市民の理解を深め普及促進を図るため、啓発活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共下水道事業★</li> <li>・下水道使用料賦課徴収事業★</li> <li>・受益者負担金等賦課徴収事業★</li> <li>・下水道経営事業★</li> <li>・企業会計移行事業★</li> </ul>

**個別目標②：下水道が整備され、生活環境が向上している**

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
下水道普及率	%	32.1 (H28)	56.6	62.4	下水道整備区域内人口/行政人口

**●行政の取り組み**

基本施策	施策内容	主な事務事業
下水道管きよの建設・維持管理及び普及促進	下水道整備区域を拡大するため、計画的な下水道施設の整備を行い、適切な維持管理を行う。また、市民が下水道へ接続するため、申請受付、完了検査などに関する事務を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共下水道事業★</li> <li>・下水道事業計画策定事業★</li> <li>・実施設計測量委託事業★</li> <li>・公共補償事業★</li> <li>・管きよ布設事業★</li> <li>・下水道施設維持管理事業★</li> <li>・排水設備関連事業★</li> <li>・下水道台帳整備事業★</li> </ul>

## 市民協働のモデル

### 市民協働事業

#### ●下水道啓発事業

- ・市民に下水道接続の意義や環境への意識を深めてもらうため、地元説明会や県と連携した出前講座を行っています。また、小中学生が、日本下水道協会主催のコンクールに、書道、ポスターなどを出展しています。

### 関連する個別計画

- 江南市公共施設等総合管理計画（H28～H67）
- 公共下水道事業基本計画（H21～H37）
- 江南市生活排水処理基本計画（H28～H37）



一級河川五条川

I まち  
柱 9

安全な水の安定供給  
— 上水道 —

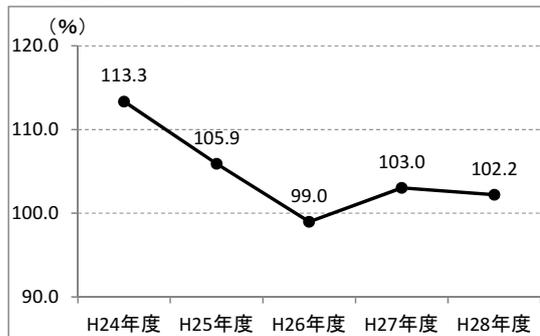
現状と課題

都市の成熟化に伴い水道施設の老朽化が進む中、大規模地震発生時において被害を可能な限り抑制し、速やかにかつ高いレベルで水道事業が果たすべき機能を維持・回復することができるよう、水道施設の耐震化を喫緊に進めていく必要があります。また、人口減少社会が到来し給水収益が減少する中、将来にわたって安定的に事業を継続していくために、なおいっそうの経営基盤強化が求められています。

江南市においても、「安全な水の安定供給」に対して8割強の市民が満足している中、この資産を健全な状態で次世代に引き継いでいくために、新たに常用水源として位置づけた水源施設並びに老朽管及び基幹管路の耐震化更新を進めています。

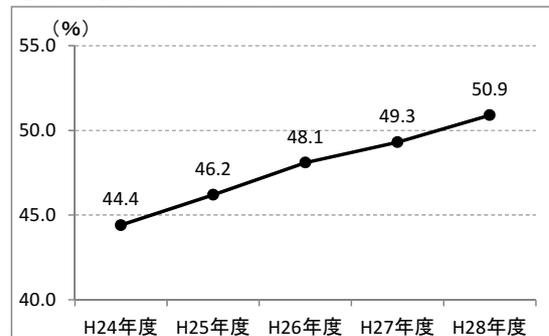
今後は、施設・設備に関する投資計画と財源計画をもとに、収入と支出が均衡するよう調整した長期の収支計画を策定するとともに、なおいっそうの効率化、経営健全化に取り組んでいくことが求められています。

■総収支比率の推移



資料：水道課

■管路耐震適合率の推移



資料：水道課

10年後のすがた

健全な経営と水道施設の計画的かつ適正な更新、維持管理が行われている。  
その結果、安全で良質な水道水が安定的に供給され、市民が安心・安全に暮らしている。

行政の使命

健全な経営と水道施設の整備を行い、安全で良質な水道水を安定供給する。

成果目標

全体目標：健全な経営と水道施設の整備により、安全な水道水が安定的に供給され、市民は安心して利用している

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
安全な水が安定して供給されていると感じる市民の割合	%	81.2 (H28)	85.0	88.0	市民満足度調査により測定。

## 第6次江南市総合計画

### 個別目標①：水道事業が適正に運営され、健全な経営が行われている

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
水道料金の収入率 (現年度)	%	99.7 (H28)	↗	↗	水道料金収入額/水道料金調定額
総収支比率	%	102.2 (H28)	100.0	100.0	水道事業の経営状況を測定するもの。 水道事業総収益/水道事業総費用 (長期前受金戻入収益化分を除く。)

#### ●行政の取り組み

基本施策	施策内容	主な事務事業
水道事業の健全な経営	水道事業の経営健全化を図るため、適正な会計処理とともに、公平かつ公正な水道料金の徴収により財源を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>水道料金賦課等事業</li> <li>企業会計管理事業</li> </ul>

### 個別目標②：水道施設が整備され、安定した水道水が供給されている

指標名	単位	基準値	目標値		説明
			H35	H39	
管路耐震適合率	%	50.9 (H28)	59.4	64.1	管路の耐震適合整備状況を測定するもの。 耐震適合延長/総延長
水質基準適合率	%	100.0 (H28)	100.0	100.0	水質基準に適合する水を供給しているかを測定するもの。 水質基準適合検体数/測定総検体数
有収率	%	93.5 (H28)	94.0	94.4	収入を伴う水量と配水した水量の状況を測定するもの。 有収水量(収入があった水量)/配水量

#### ●行政の取り組み

基本施策	施策内容	主な事務事業
水道施設の整備と水道水の安定供給	安全な水の安定供給を図るため、計画に基づき水道施設の更新を実施するとともに、適切な維持管理を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設維持管理事業</li> <li>水質管理事業</li> <li>配水管<sup>注1</sup>布設・改良事業</li> <li>基幹管路更新事業★</li> </ul>

## 市民協働のモデル

### 市民協働事業

#### ●企業会計管理事業

- 江南市水道事業経営審議会を設置し、市民・団体・学識経験者などが参加し、協働により経営に関する重要事項について調査、審議を行っていきます。

## 関連する個別計画

- 江南市水道ビジョン (H24～H38)
- 江南市水道事業基本計画 (H24～H38)
- 経営戦略 (H31～H40) (予定)
- 第1次基幹管路更新計画 (H29～H43)
- 第3次配水管改良計画 (H28～H37)

注1 配水管：配水場から給水区域内へ配水する管をいう。